

学位論文審査の要旨

学位申請者	古志 めぐみ 【人間発達科学専攻 平成23年度生】 (平成29年5月31日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	メール相談からみたひきこもる若者の悩みと自己理解の深まり	<p>本論文は、メール相談を利用する当事者336名の語りのデータをもとに、ひきこもり当事者の心性に迫り、彼らの自己理解の特徴とその変容過程を検討したものである。これまでアプローチの難しかった重症の臨床群の語りを多く抽出し、Burkeの自己構築理論の枠組みから悩みの構造を整理した。また対数線形モデルを用いて、ひきこもりの開始年齢やジェンダー規範が、当事者の悩みや自己理解の特徴に与える影響を見出した。さらに成長モデルに基づいた支援が、当事者の自己理解を促し、主体性を高めることを支援事例によって示した。</p> <p>本研究によって、自己成長モデルに基づく、当事者に寄り添う心理的支援の可能性が実証的に示されたことは、これまで医療的治療か就労かといった二者択一的な支援モデルに終始しがちだったひきこもり支援に、新しい展開を促す意義があると評価された。</p> <p>本論文の審査会は、平成30年7月17日、平成30年10月24日、平成30年12月10日の3回にわたり開催された。第1回審査会では、Burkeの理論を用いた分析方法の精緻化と考察の推敲が求められた。第3回の審査会までに、要請された修正事項が十分推敲され、完成度が高められた。平成30年12月19日の公開審査会での発表は、配布資料もわかりやすく論旨も明快であり、フロアからの質問にも適切に応答がなされていた。</p> <p>以上の結果より本審査委員会は、全員一致で本論文が博士(人文科学)、Ph. D. in Psychology にふさわしいと判断し、合格とした。</p>
審査委員	(主査) 准教授 青木 紀久代	
	准教授 伊藤 亜矢子	
	教授 篁 倫子	
	教授 浜口 順子	
	准教授 石丸 径一郎	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p><input checked="" type="radio"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	